

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①学習意欲や思考力・判断力・表現力等を高める授業改善に取り組む。</p> <p>②より高い進路実現に対応した教育課程を編成する。</p>	<p>①県立高校改革(I期)におけるICT利活用授業研究推進校として、最終年度(3年目)の取組を充実させる。</p> <p>②教育課程に関する課題の検討を継続し、次期学習指導要領改訂に向けて、全職員で着手する。</p>	<p>①各教科の効果的な事例を共有した実践を継続し、BYODの利活用について、その可能性を教科会議等で検討、研究成果を共有する。</p> <p>②新学習指導要領にもとづく教育課程編成に向けて、情報を提供しながら、教科代表者会議を計画的に実施する。</p>	<p>①BYOD等ICT利活用授業に係る研修会・研究授業等を充実させ、生徒の主体的な学習意欲を高められたか。</p> <p>②新学習指導要領にもとづく、より高い進路実現につながる教育課程編成の準備に着手できたか。</p>	<p>①BYODについて、職員研修会や研究授業等を通じて効果的な活用法を研究した。一部の授業ではあるが活かし、生徒の主体的で深い学びを実現している。</p> <p>②教育課程説明会等で得た情報を各教科で共有し、教育課程編成準備に着手した。</p>	<p>①BYOD等ICT利活用の授業実践を進めるため、他の研究推進指定校との連携や、外部講師による研修会の企画、外部研修会への参加等をさらに充実させる。</p> <p>②教科を超えた情報共有を促進し、学校の抱えるさまざまな問題をふまえた、カリキュラムマネジメントを実現する。</p>	<p>①BYODを活用した先進的な素晴らしい研究授業を拝見した。多くの職員がICT機器を利活用できるように今後も研修等を推進してほしい。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの実現や大学入試改革への対応にも、ICTを活用したカリキュラムマネジメントを実現してほしい。</p>	<p>①BYODについて有効に活用できている授業がある。校内での情報共有を促進し、さらに研究を続けたい。</p> <p>②全職員で教科を超えて収集した情報の共有を図り、より高い進路実現を可能にするカリキュラムマネジメントを実現する。</p>	<p>①職員研修や研究授業等を活用し、ICT機器の利活用推進を図るとともに、機器の円滑な利用のため管理方法を改善する。</p> <p>②今後の本校のあり方や育てたい生徒像、大学入試改革を視野に入れ、次期教育課程の2019年度中の完成を目指す。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①学校行事・生徒会活動等を通じ、望ましい生徒集団を育成する。</p> <p>②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や地域に貢献する意識を高める。</p>	<p>①個に応じた相談・支援体制を充実させるとともに、人権感覚を涵養し自己・他者理解能力を高める。</p> <p>②生徒主体の学校行事・生徒会活動の企画運営に係る組織的な支援と自己表現の苦手な生徒を見守る支援体制を確立する。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心に、ケース会議の開催やスクールカウンセラー(SC)等と連携した支援を行う。</p> <p>・各種講演会、学習会などを実施する。</p> <p>②各行事・活動のねらいを明確にし、育みたい力を具体化して、リーダーの育成を支援する。顧問総会・部員総会の開催時に、安全面への注意を啓発する機会を設けていく。</p>	<p>①状況に応じて速やかにケース会議を開催し、SC等と連携した支援を行ったか。</p> <p>・目標を踏まえた講演会や学習会が実施できたか。</p> <p>②関係する組織で共通理解が得られ、支援することができたか。安全面の配慮が効果的にできたか。</p>	<p>①各学年の教育相談コーディネーターを中心に生徒把握に努め、迅速にケース会議やSCとの面談を行い、課題解決に努めた。</p> <p>・薬物乱用防止、携帯電話、交通安全、性感染症防止の講演会等を実施した。</p> <p>②学校行事・生徒会活動を通して、規定順守の共通理解を図り、「主体性及び自己を尊重する態度の育成」の支援体制を整備した。多くの部が地域活動に参加し貢献した。(15回)</p> <p>・顧問総会(1回)や部長会(4回)で部室管理や部活動の安全対策に係る啓発を充実させ、重大事</p>	<p>①課題を抱えた生徒への対応について職員の理解をさらに深め解決に向けた取り組みを推進させる。</p> <p>・講演会等を生徒の実態に即しさらに充実させる。</p> <p>・LHR等で、安全や規範に対する意識を涵養する。</p> <p>②多くの生徒が学校行事や部活動に主体的・積極的に参加する状態ができたが、自己表現が苦手な生徒を見守り、支援をする体制の見直しは課題である。</p> <p>・2年生全員が受講した普通救命講習会の内容を活かし、今後も命の尊重やケガの対処について理解が深められる機会を設ける。</p>	<p>①生徒の評判は近隣でも大変良い。立ち居振る舞いが落ち着いていて、礼儀正しく挨拶もよくできる。部活動でも指導されているせいも、学校周辺の歩道等のでいつも綺麗だ。</p> <p>②関東大会への陸上部やバレーボール部の出場が横断幕でわかり近隣も応援している。文化祭の花火打ち上げに伴う騒音等地域との調整の難しさや、進路実現のための学習面と学校行事等のバランスもあるだろうが、工夫してさらに活動を充実させてほしい。</p>	<p>①様々な課題を抱えた生徒に対するケース会議、学年、SCなどの取り組みは行ったが、有機的な連携を強めさらに充実させる。社会や学校におけるルールやマナーを遵守する意識を高める。</p> <p>②生徒主体の学校行事等推進のためのリーダー育成等支援の効果が各行事で見られた。</p> <p>・部員、顧問総会等での安全面配慮や規定順守の共通理解が、各部の活躍に繋がった。</p> <p>・学業や生活習慣の充実と併せた総合的な支援体制を確立させる。</p>	<p>①教育相談コーディネーターを中心として学年やSCの連携を深め、それを可視化する。</p> <p>・生徒の実態に合った種々の講演会や集会、学年での指導を推進して行く。</p> <p>②学校行事等の充実のため、リーダー育成と自己表現の苦手な生徒への支援の両面について、職員の理解の深化と体制の見直しが必要である。</p> <p>・活動に安全に取り組むため老朽化した施設の整備・点検が必要。</p> <p>・生徒の実態や地域理解に基づくバランスのよい行事設定を検討する。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	① より高い進路実現に向けた計画的な学習を促す支援・指導の充実を図る。 ② 進路指導に係る最新の情報収集に努め、組織的な進路指導の充実を図る。	①昨年度構築した進路計画を実施しつつ検証し、内容の充実を図る。 ②最新の情報を収集するとともに効果的な進路支援体制を期す。	①各種ガイダンスや模擬試験の振り返りを徹底させる。1年生にはポートフォリオを意識させた記録をさせる。自習室の整備をする。 ②新しい大学入試制度について全職員が研修し、適切な指導に繋げる。	①指導内容の充実や振り返りの徹底、学習環境整備により生徒の意識が高まり、進学実績向上に繋がったか。 ②教員対象の研修会を昨年度より増やして実施できたか。	故を防止した。 ①当初の予定に加え、ガイダンスを追加実施し、意識を向上させた。1年生は20種類のポートフォリオを作成させた。自習室整備を完了させ、学習環境を充実させた。 ②外部講師による研修会その他、文科省や県教育委員会や、予備校等からの様々な情報を職員へ提供し指導力の向上を図った。	①安易に指定校受験を選択する生徒数は減少した。また、新しい入試や高校での学びの変化を認識させることができた。 ②「視野を広め概念を学ぶ研修会」か「情報を得、直接的な指導に直結する研修会」かを明確に分け、全教員が研修会の効果を最大限発揮できるように工夫する。	①指定校推薦を選択する生徒が減ったことは良い傾向だ。学校外の活動、特にボランティア活動について、中学校とも連携した地域行事参加等も今後検討されてはどうか。 ②教員が生徒に与える影響は大きい。部活や行事と同じくらい学習面でも、自分を高め、困難に挑戦する姿勢を全教員で育て、進路の満足度をあげてほしい。	①徐々にではあるが、生徒の意識改革に効果が出始めている。進路に関する意識喚起を継続し、視野を広げさせるキャリア教育の取組みを充実させる。 ②教師の意識喚起並びに取組の迅速性が課題である。	①教育改革の意味や社会が求める力などを生徒に分かりやすく伝えるとともに、キャリア教育の充実を図る。 ②教員対象の模試分析会を新たに設定する。情報や学校関係者からの期待等を全職員で徹底共有し、有効性の高そうな取組みは、積極的に試行する。
4	地域等との協働	①創立110周年を節目とした、地域や保護者との新たな協働体制を構築する。 ②地域と連携した防災活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①校史資料室の資料を教育活動へ活用することや教育課程への位置づけを検討する。 ②生徒が自主的に地域貢献できるような意識啓発や指導の在り方を検討し、実践する。	①校史資料室運営委員会を継続し、教育活動への具体的な利活用の実践を検討する。 ②地域貢献活動に参加した生徒の感想や地域の方の反応をキャッチし、発信する。	①校史資料室の教育活動への具体的な利活用を実践するための方策を検討できたか。 ②生徒の自主的な地域貢献活動の実践を発信できたか。	①卒業生を交えて校史資料室運営委員会を継続して開催し、教育活動への具体的な利活用の実践を検討した。 ②地域貢献活動の実践や参加生徒の感想等本校HPで発信した。	①オリンピック開催前年であることから、本校の体育祭の変遷など運動関係の歴史について調査し、発信につなげる。 ②活動支援Gとも連携して、生徒が自主的に地域貢献できるような意識啓発と実践を図る。	②地域連携も様々な形態があるが、高齢者から小・中学生まで幅広い年代との交流は、多くの気づきがあるので活用してほしい。 ②天津コミュニティセンターで小学生対象「夏休みこども教室」を天津生が開催してくれて好評だった。今後もお願したい。	①校史資料室運営委員会の継続的な開催による教育活動への具体的な利活用の検討から実践に移行する。 ②部活動の生徒を中心とした地域貢献活動は定着している。さらに生徒の自主的な参加を促す方策を検討する。	①本校の体育祭の変遷を中心に文化祭時にパネル展示などを通して、多くの人に情報発信する。 ②活動支援Gとの連携により、生徒の主体的・自主的な地域貢献活動を促す。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止の徹底と計画的な教職員のOJTを推進する。 ②施設・設備の管理を徹底するとともに、生徒の学習環境を向上させる。	①職員の事故・不祥事防止に対する意識向上を図るための職員研修を計画的に実施する。 ②施設・設備の安全が確保されるよう日常点検を実施する。	①職員主体の事故・不祥事防止研修会を開催する。 ②定期的な安全点検を実施し、修繕が必要な箇所を速やかに対応する。	①事故・不祥事防止会議を計画的に実施したことで職員の意識が高まったか。 ②施設・設備の問題点を迅速に対応できたか。	①事故・不祥事防止会議を職員会議等と併せて定期的で開催し、職員の意識を高めた。 ②施設・設備の定期的な点検を実施し、修理・改善が必要な点を把握して関係部署と連携して速やかに対応した。	①さらに職員の不祥事・事故防止意識が高まるよう、会議や研修会の形態を工夫する。 ②老朽化が著しく、予算的に対応が難しい場合も多いが、関係部署と連携し、安全保持のため優先順位等をつけ適切に対応する。	①事故や不祥事は、イメージダウンだけでなく、地域や生徒の信頼を裏切り、傷つけることになる。特に生徒への影響は大きいため、防止に全力で取り組んでほしい。 ②校内清掃が不十分な部分もあるので、方法等検討してほしい。	①事故・不祥事防止会議や研修会を昨年より多く、多様な方法で実施し、職員の危機意識を高めた。 ②施設・設備の点検により、適切に修理等を行ったが、老朽化が激しく構造上の問題や、予算の制限により、まだまだ改善の必要がある	①さらに職員の不祥事・事故防止意識が高まるよう、会議や研修会の形態を工夫する。 ②関係部署と連携し、優先順位をつけ適切に修繕等を行うとともに、PTAとも連携し校内の環境整備等に積極的に取り組む。